



「Z-BFM」の活用方法について農家の相談に応じた(山形県三川町で)

営農計画策定支援ソフト 「Z-BFM」

JAグループ山形地域・
担い手サポートセンター

作物の最大所得づくり

【山形】JAグループ山形地域・担い手サポートセンターは11、12の両日、三川町で、営農計画策定支援システム「Z-BFM」の活用推進に向けた実演・相談会を初めて開いた。システムでは経営規模や作物の種類、生産販売量、資材費、労働力などを入力すると作物の組み合わせや面積など、作物ごとに所得が最大となる営農計画を示す。農家やJA関係者25人が相談に訪れた。

初の実演・相談会の活用推進へ

「Z-BFM」はJA全農と農研機構が共同開発した支援ソフト。地域・担い手サポートセンターは、JAグループ山形第3次長期農業振興戦略の「JAの経営サポート強化」の一環として、現場での活用推進を図

現在、河北町の農事組合法人・ファーム吉田の協力で、手作業で策定した2016年の営農計画を「Z-BFM」に取り込んで試験的に活用し、検証している。

の農業者が集まるJA全農山形主催の総合展示会「わくわく農業心援祭」で開いた。来場者は、営農条件を実際に入力し、瞬時に最良の営農計画を提案する機能に興味を示していた。サポートセンターでは

実演・相談会は、多く

今後、県営農指導員協議会や県地域営農法人協議会の会員向け研修会も計画している。